



## 記者発表資料

2022年10月27日

### CMA CGM グループ会社と横浜川崎国際港湾株式会社が

#### 横浜港本牧ふ頭 D5 ターミナルの予約契約を締結

- 2026年10月までに CMA CGM の現在のコンテナターミナルである D4 を D5 に移転することを前提にしたものです。
- D5 ターミナルは、最大 15,000TEU の大型船による輸送に対応し、コンテナヤード容量が 20%増加、コンテナリーファープラグが 120%増加する計画です。
- 電動 RTG の導入計画や、LNG 船のバンカリングに対応可能な周辺インフラに支えられた、より環境に優しいターミナルです。

海・陸・空の物流ソリューションを提供するグローバル企業である CMA CGM グループの一員である CMA CGM JAPAN 株式会社と横浜川崎国際港湾株式会社 (YKIP) は、2022年10月26日に横浜港の本牧ふ頭 D5 コンテナターミナルにおける予約契約に関するセレモニーを執り行いました。これにより、2026年10月までに CMA CGM の現在の D-4 コンテナターミナルを D-5 コンテナターミナルへ移転することが可能となります。

#### コンテナヤードの容量拡大とリーファープラグの2倍以上を計画

D-5 コンテナターミナルは、延長が 400 メートル、喫水が 16 メートルの岸壁を擁する予定です。これにより CMA CGM は、最大 15,000TEU の大型船による輸送に柔軟に対応できるようになります。

D-5 ターミナルは、コンテナヤード容量が 20%増加し、リーファープラグが現在より 120%増加する計画です。これにより、CMA CGM のウィークリーサービス「アジア・セントラル・サウス・アメリカ 1 (ACSA1)」で増加している横浜向けの生鮮果実輸送に対応する機会が生まれます。

## 環境にやさしいコンテナターミナル

最大 20 列のコンテナと甲板の高さ 9 段までのコンテナに対応できる 3 基のガントリークレーンと、電動 RTG 11 基で運用される予定です。

既に本牧ふ頭のコンテナターミナルには環境負荷の低減を図る取組として、国の非化石証書制度の認証を受けた再生可能エネルギー由来の電力が導入されております。くわえて、CMA CGM は、船舶が港に停泊している間、陸上電源に接続するためのコールドアイロン設備の導入を検討しています。船舶の補助エンジンを停止しても、特に冷蔵された生鮮食料品の温度を維持するために必要な電力が得られるため、停泊中の船舶からの排出量が大幅に削減されます。

また、横浜港では LNG バンカリング船が就航予定です。これにより、CMA CGM の e-methane (カーボンニュートラル燃料) 対応 LNG 船への LNG バンカリングが可能になります。CMA CGM は現在、32 隻の LNG 船 (e-methane Ready) を保有しており、2026 年までに 77 隻の e-methane Ready 船を運航する予定です。

CMA CGM JAPAN 株式会社の内田秀樹社長は、「大型船による中南米からの生鮮果実を中心とした横浜へのインバウンド貨物の輸送に備え、D-5 コンテナターミナルの運用能力、コンテナヤード容量、リーファープラグの強化は、当社のサービス提供力を一段と強化することになります。また、今後計画されているインフラ整備の実施により、海運業とコンテナターミナル事業の脱炭素化をさらに進めることができます。」と述べています。

横浜川崎国際港湾株式会社の人見伸也代表取締役社長は、「本牧ふ頭 D-5 コンテナターミナルの再整備事業は、弊社中期経営計画の経営方針のひとつであり、全社一丸取り組んでいる重要事業であります。横浜川崎国際港湾(株)は、今後、D-5 コンテナターミナルの早期供用に向け、国土交通省、横浜市及び関係機関と連携し、再整備工事にまい進していく所存です。」と述べています。

## CMA CGM グループについて

ロドルフ・サーデが率いる CMA CGM グループは、海・陸・空・物流ソリューションのグローバルプレイ

ヤーとして、580 隻の船隊で 5 大陸にまたがる世界 420 以上の港にサービスを提供しています。同グループは、2021 年に 2200 万 TEU のコンテナ（20 フィート換算単位）を輸送しました。航空貨物 47 万 4000 トン、内陸貨物 2100 万トン以上を輸送したグローバルロジスティクス企業である子会社 CEVA Logistics と、航空貨物部門 CMA CGM AIR CARGO とともに、CMA CGM グループは常に革新を続け、新しい船舶、内陸、航空貨物、ロジスティクスソリューションによって、お客様に包括的かつますます効率的にサービスを提供することを目指しています。

海運におけるエネルギー転換に積極的に取り組み、代替燃料の使用におけるパイオニアである CMA CGM グループは、2050 年のネット・ゼロ・カーボン目標を設定しています。

毎年、CMA CGM 基金は、万人のための教育と機会均等を促進する努力の一環として、何千人もの子供たちを支援しています。CMA CGM 基金は、緊急対応が必要な人道的危機に介入し、当グループの海運と物流の専門知識を活かして、世界中に人道的物資を届けています。

400 以上のオフィスと 750 以上の倉庫からなるネットワークを通じて 160 カ国に展開し、本社があるマルセイユの 2900 人を含め、世界中で 15 万人の従業員を雇用しています。

詳しくは、[cmacgm-group.com](http://cmacgm-group.com) をご覧ください。

#### **横浜川崎国際港湾株式会社について**

横浜川崎国際港湾株式会社は、京浜港における港湾運営会社として設立されました。国際コンテナ戦略港湾政策を推進すべく、国・横浜市・川崎市・民間金融機関の出資を受け、コンテナターミナルの整備・運営を行っています。2022 年 10 月現在、9 つのコンテナターミナルを供用しており、世界最大級のコンテナ船に対応可能な南本牧ふ頭をはじめ、横浜港・川崎港のコンテナターミナルの整備運営を通し日本港湾の競争力強化に取り組んでいます。

港湾におけるカーボンニュートラル（CNP）の取り組みとして、施設整備における荷役機械のハイブリッド化や電化のサポート、再生可能エネルギーの活用、LED 照明の導入などにより、環境にやさしい港づくりを進めています。また、当社が出資する合弁会社「エコバンカー SHIPPING 株式会社」を通じて、環境負荷の低い LNG を用いた東京湾における LNG 燃料供給拠点形成に向けた取り組みを進めています。

その他、利用者のニーズに的確に対応したコンテナターミナルの整備や効率的な運営の推進、災害等のリスクに強い港づくりを通じて、SDGs で掲げる目標達成に貢献していきます。

詳しくは、当社 HP ([ykip.co.jp](http://ykip.co.jp)) をご覧ください。

《問い合わせ先》

[APAC.media@cma-cgm.com](mailto:APAC.media@cma-cgm.com)

Follow the CMA CGM Group on:



横浜川崎国際港湾株式会社

運営部長 工藤 良司 TEL 045-680-6584